

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大学生と県内企業をつなぐ「大しごと一く in 信州 2019」の開催とプログラムマッチングを目的としたインターンシップ検索サイト「信州キャリアラボ」の構築
事業主体 (連絡先)	信州大学 キャリア教育・サポートセンター センター長 平野 吉直 電話番号 0263-37-3348 / E-mail career@shinshu-u.ac.jp
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,250,000 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

事業内容

学生と県内企業の対話「大しごと一く in 信州 2019」を開催

11月9日(土)、信州大学松本キャンパス第一体育館で大しごと一く in 信州 2019 を開催しました。大しごと一くは企業・社会人と学生を繋げ、学生には仕事や働くことに対して感じている不安や希望を整理し将来のビジョンを明確にすること、企業の皆様には学生と早い段階から交流して頂き、学生が普段感じていることなどを知らせてもらう場にしたと考え企画しました。今回企業・自治体 76 団体、学生 19 団体による仕事の面白さや活動を伝えるブースを出展していただいた。参加学生 314 名、一般 31 名、出展企業 138 名、総勢 514 名の方々が参加した。また、インターンシップ検索サイト「信州キャリアラボ」は、しごと一くに参画頂いた企業を中心に登録を行い、48 件の企業を登録することができた。大しごと一くをきっかけに企業を知り、興味関心が湧いた企業のインターンシップに参加できる一貫した仕組みとして構築し実装した。



【大しごと一く開催の様子】

【目標・ねらい】

- ①来場者数 1,000 名(企業 80 団体、学生 20 団体)
- ②松本地域内の企業の参加率 22 社(目標:35 社)
- ③しごと一くを毎月開催を達成(4 月～11 月)
- ④県内企業を知る機会に繋げる(認知度 4.4 倍)

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

開催の結果、参加した学生からは、「参加して良かった、楽しかった」という声や、企業様からは「雰囲気良く学生と話しやすかった」という嬉しい感想をもらいました。また、事業の前後で企業の認知度を測ったところ、**平均で約 4.4 倍増加することがわかった。多いところでは 10 倍以上認知が向上した結果**が得られ、接点を早い段階でつくることで地域企業を「知る」ことにつながり、インターンシップ等の次の段階につながる事がわかった。

しごと一くを毎月開催し(4 月～11 月)、プログラム受入企業の募集や「大しごと一く」の周知・参画依頼を併せて行い、半年間の PR 活動として活用し、効果を高めた。

※自己評価 【B】

【理由】

予定した事業は開催できたが、台風等のアクシデントによって、来場者数の目標 1,000 名が達成できなかった。広報周知を強化し、学生と企業が交流する機会を創出したい。

今後の取り組み

今年度実施し、分析から以下の 8 点を課題と捉えた。次年度はこれらの点を改善し、学生の来場者数の向上を目指す。

- 1.来場者数の自主参加率の増加
- 2.ターゲットの学年に合わせた対応
- 3.学生・企業へのインターンシップ情報の周知を充実
- 4.より話しやすい会場環境の整備
- 5.「しごと一く」を学生・企業双方のニーズに合わせて充実
- 6.学生が参加したくなる雰囲気を伝える広報
- 7.各学年や目的に合わせた併催企画の検討
- 8.イベントの目的と参加企業のモチベーション(参加意識)を共有していく事前の取り組みの充実

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある